

今回は難しいですよ〜頑張って読んで下さい。しかし、その場の空気を読む・・・簡単そうでも難しいかもしれませんね。
何事も経験ですね。僕達でも初めて行く場所や集まりではまず「どんなノリなん？」って考えますもんね。
初めは敬語、慣れてくるとタメ語、どのタイミングから？いやはやほんとに僕達の世界は難しいですね〜・・・。

久田

第39回『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

☆コンテキスト

コンテキストとは、場面や文脈、状況といった意味合いを含むものです。コミュニケーション場には必ず存在します。人と人とがコミュニケーションする場合は、常に何らかのコンテキストのなかで生じます。つまり、コミュニケーションはコンテキストのなかで生じるということなのです。人と人とがコミュニケーションする際に、コンテキストの制約を強く受ける場合と、そうでない場合があります。ちょっと考えてみましょう。例えば、ピクニックに行って、広い公園で過ごすような場合、そこで強い制約を受けることはありません。大きな声を出しても、笑っても、泣いてもあまり関係がないということです。しかし、お葬式や結婚式など冠婚葬祭の場では、その制約を強く受けることになります。場にそぐわない行動は慎まなければならないことがあるからです。

コンテキストには、三つの次元が存在すると言われています。一つは、物理的な次元です。物理的な次元とは、コミュニケーションが生じる場のことを指します。人と人とがコミュニケーションするとき、例えば学校であれば教室や運動場、体育館や職員室など、どの場所でコミュニケーションするのかによって、その影響を強く受けるということになります。二つ目は時間的・空間的次元です。時間的・空間的次元は、人と人とのコミュニケーションが、時間的にどの位置で生じるのかということの次元です。時間は短時間のものから、一日、一年、数年と長時間のものまでが含まれます。時間が長くなるにしたがって、コミュニケーションの内容も深まっていきます。三つ目は社会的・心理的次元です。その人が置かれている立場や、文化的習慣などです。コミュニケーションの相手の社会的な立場の違いによって、対人コミュニケーションは、影響を受けることになります。先生と生徒、親と子などもそうです。また、国の違いによる文化的な習慣の影響も受けることになります。

1) 発達障がいのある子どもの場合は

発達障がいのある子どもの場合は、状況を理解することができないためにトラブルになることがあります。つまり、コンテキストの制約が理解できないことがあるということです。お葬式などの時に静かにすることができなったり、不適切なことを話してしまったりすることがあるということです。これは、コンテキストの理解ができないことが原因です。わざと、周囲の人を困らせようとしているわけではありません。また、物理的次元の理解ができていないと、声の大きさを調節することができなったり、言葉遣いが不適切だったりすることもあります。時間的・空間的次元の理解ができていない場合には、初対面の人に、プライベートな内容まで話してしまい、相手に理解されないこともあると考えられます。

このようなとき、文脈が読めないことを空気が読めないというように指摘され、傷つく発達障がいのある子どもも多くいます。文脈が読めなくて困っている子どもたちというように理解することが大切です。

2) どのようにすればよいのか

時間や場所、目的等に応じた機会を作り、そこでコミュニケーションの練習をすることが大切です。例えば、職員室などに行く用事を依頼して、そこで、必要なコミュニケーションの練習をするなどです。その際には、職員室にいる教員にも理解をしておいてもらう必要があります。担任だけではなく、学校全体で共通理解して指導していく必要があるということです。

いろいろな場面を経験しながら、その場での適切なコミュニケーションの仕方を学んでいくということです。状況を設定すれば、それでよいというわけではありません。そこで、うまくやりとりできるという経験をつむことができるように、指導していかなければならないということです。

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション (やまびこの里) クラスルームコミュニケーション (こころリース出版会) 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア (エンバフメント研究所) など